

立命館経済學

第二十四卷 第四号

昭和五十年十月

内 容

論 説

- 欧州共同体の地域経済問題……………清水 貞 俊 1
寡占的諸行動とマクロ的影響について……………北 野 正 一 43
——寡占価格論への一接近——

翻 訳

- フランスにおける労働者とその家族の権利(一)……………戸木田 嘉 久 75
——フランス労働総同盟『ポケット法律便覧』から——
バルウス「世界市場と農業恐慌」(四)……………大 鈴 藪 木 輝 雄 107
大 鈴 敏 雄
共同研究室……………139

立 命 館 大 学 経 済 学 会

立命館経済学 第二十四卷・第二号

論 説

無理をしない商法と経営……………足立政男

——近世における京都の老舗の
家訓・店則から見て——

社会主義社会の過渡期的性格……………小野進

——毛沢東の社会主義政治経済学
への画期的な貢献——

翻 訳

復旦大学経済学部他編著

『社会主義政治経済学』……………小野進

海外留学記

EC経済の最近の若干の問題点……………清水貞俊

共同研究室

発行所 立命館大学経済学会

立命館経済学 第二十四卷・第三号

論 説

巨大企業分析と

「生産の集積」概念の展開……………坂本和一

研 究

一九世紀末「大不況期」の

過剰資本と生産の集積……………山本幹夫

——ドイツ石炭・鉄鋼業を事例として——

重化学工業資本の

強蓄積と租税政策……………藤岡純一

翻 訳

バルヴス「世界市場と

農業恐慌」(三)……………鈴木藪敏正雄

共同研究室

発行所 立命館大学経済学会